

脱・貧根！ ～貧困の根を絶つには～

所属	三重県桑名市立光陵中学校	実践者	岩花 亜紀 (G)
対象	中学3年生	時間数	4時間×6クラス
場所	体育館、教室	実践教科	総合、道徳
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界に興味を持ち、他国を肯定的に理解する。 ・ガーナを通して、世界が抱えている問題を知り、貧困問題について考える。 ・問題を解決するために、日本が行っている開発援助を知る。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>「ガーナに行ってみたらホントはこんなトコだった!」(体育館にて6クラス対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガーナを肯定的に知る ・他国の文化や習慣を尊重する <p>①アフリカについて知っていることやイメージを交流する。</p> <p>②パワーポイントを使って、ガーナクイズを行う。多くの写真や、頭に荷物を載せたり、カカオの香りを嗅いだり、ガーナ産チョコレートの試食などを行うことで、より身近にガーナを感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自作/パワーポイント ・ダンボール(約3kg) ・ガーナ産チョコレート ・ローストしたカカオ豆
	2	<p>「ガーナで出会った女の子」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガーナの農村部の現状を知る ・世界の就学率を知り、学校に行けない原因を考える <p>①女の子だけが写っている写真を見せて、生活環境を想像する。</p> <p>②女の子の家族が営む農場の写真を見て、ガーナの農村部の現状を知る。 ←大規模農場だが、女の子は学校に行けていない</p> <p>③世界の就学状況を、データ資料を見て知る。4カ国4人の子どもの現状が載っている資料を読んで、グループで交流する。</p> <p>④学校に行けない理由を、ブレインストーミング方式で模造紙に書き出す。その後、他のグループの模造紙を見て交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修で撮った写真 ・『世界の子どもデータ』(ユニセフ) ・『世界の就学率』(FREE THE CHILDREN) ・『世界の子どもたち』(絵本:もったいないばあさん 考えよう世界のこと)
	3	<p>「貧困はどこから?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度貧困に陥ると抜け出せなくなるという問題の循環図を考え、その問題の構造を発見する ・問題の悪循環から脱するための手だてを考える <p>①貧困カードを読んで、貧困の輪を作る。全体で交流する。</p> <p>②貧困の輪を断ち切る具体的な方法を考える。全体で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困カード(ユニセフガイドブック)
	4	<p>「援助とは?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な援助のあり方や、持続可能な援助方法があることを知る ・ガーナの発展を支えている日本の開発援助を知り、自分にできることを考える <p>①ワークシートの吹き出しを考え、持続可能な援助のあり方を知る。</p> <p>②ガーナの統計データを見て、援助によってガーナが発展してきていることを知り、日本の援助の様子を写真を通して学ぶ。</p> <p>③青年海外協力隊員の生の声を聞いて、自分に出来ることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『魚のいない川と魚のとおり方』『援助のはしご』(教師海外研修ワークシート) ・『ODA 国別データブック』(外務省) ・海外研修で撮った動画や写真
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちはこれまで、社会科やメディアで漠然と知っていたことを、今回の授業で写真や資料を通してより深く知り、貧困問題について考えることができた。 ・世界に関心を持った生徒や、青年海外協力隊に興味を示す生徒がいた。 		
課題	プログラム内容を選定し、最後の振り返りに時間をかけることが必要だった。		
備考	この実践とは別で同時期に、中学3年英語の授業で黒人差別の歴史を学ぶ際、ガーナで訪れたケーブコースト城の話をして、奴隷貿易の歴史を伝えた。		

[授業実践の詳細]

1 時限目「ガーナに行ってみたらホントはこんなトコだった!？」

1 子どもの活動の流れ

- ① アフリカに対するイメージ…近くの人と、アフリカについて知っていることやイメージを話した。その後、全体で交流した。
- ② ガーナクイズ…パワーポイントに映し出されるクイズを解きながら楽しくガーナを学んだ。クイズの項目は、ガーナの位置、家、食べ物、日本とつながっているもの(野口英世など)、カカオ、ガーナの人々(ファッション、子どもたちと学校、頭に載せる習慣)を、写真を通して知り、説明を聞いた。<教材1>



この時限のねらい

- ・ガーナを肯定的に知る。
- ・他国の文化や習慣を尊重する。



- ③ ガーナを五感で感じる体験…ダンボールに 500ml ペットボトルを6本入れた状態で、丸めたスカーフを台にして、頭の上に乗せて歩くことができるかを挑戦した。さらに、ガーナ産のチョコレートを試食し、日本のチョコレートとの違いを確かめたローストしたカカオ豆の匂いを嗅いだり、かじってみたりもした。

<教材2, 3, 4>



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ガーナを紹介する前のアフリカに対する生徒のイメージや知っていること…動物がいっぱいいそう。／人々は黒人。／水が汚そう、貧しい。 など
- ◇ クイズ形式でガーナを紹介し、現地で撮ってきた写真を使ったことで、生徒は興味深く話を聞いていた。
- ◇ クイズの問題に対しては、正解する生徒が多かった。難しそうだったのは、日本とのつながりである千円札すなわちガーナと野口英世の関係であった。黄熱病との関係を答えられた生徒もいたが、正確に答えられなかった生徒もいた。他に正答数が少なかったのは、カカオの実を問う問題だった。ガーナという国はチョコレートで有名なことは知っているが、チョコレートの原料となるカカオの実を見たことがある生徒は少ないと考えられた。
- ◇ ガーナ体験では、上手に頭に寄せられた生徒もいたが、どの生徒も難しそうであった。「ガーナ人は手を離して水を運んでいる」と伝えと、生徒たちはとても驚いていた。
- ◇ ガーナ産チョコレートの感想…固い。／日本のチョコレートより甘くないが良い。 など
- ◇ ローストしたカカオ豆の感想…チョコレートのとてもいい香りがする。／めちゃくちゃ苦い。 など

3 使用した教材

- <教材1>平成 26 年度教師海外研修受講者が収集した写真で作成したパワーポイントスライド
- <教材2>500ml ペットボトル6本入りダンボール
- <教材3>ガーナ産チョコレート <教材4>炒ったカカオ豆

2 時限目「ガーナで出会った女の子」

1 子どもの活動の流れ

- ① 一人の少女の写真 [フォトランゲージ]・・・ガーナの大規模農場で出会った少女の、背景が白塗りしてある写真を見て、年齢や家族構成、何をしている場面などを想像した。<教材5-1>
- ② ガーナの農村部の現状を知る<教材5-2>・・・少女の写真の全体写真や農場の写真を何枚か見た。少女は、親族で農場を営んでいるある一家の子どもで、妹の面倒をみなくてはいけないため学校に行けていない。母親は農場の手伝いをしている。農場は、とても広い土地で多種類の作物や家畜を飼っているが、裕福とは言えず、少女のように未就学の子どもがいることを知った。
- ③ 世界の就学率、各国の未就学の子どもたち・・・地図から読みとる世界の就学率や、数字からわかる世界の就学難を資料から読みとる。<教材6, 7> 未就学の子どもたちの現状が絵や文字で書かれている4枚の資料を、4人グループに各人一種類ずつ目を通した。その後、自分の読んだ資料をグループ内で説明し合った。<教材8(右図)>
- ④ 学校に行けない原因[派生図]・・・グループで、学校に行けない原因を模造紙に書き出した。書く時は必ず声に出して書き込み、出た意見に否定しないなどのルールを決めて行った。
- ⑤ 他のグループの模造紙を回して交流・・・個人で賛同する意見やなるほどと思った意見には、星印をつけながら交流した。

この時限のねらい

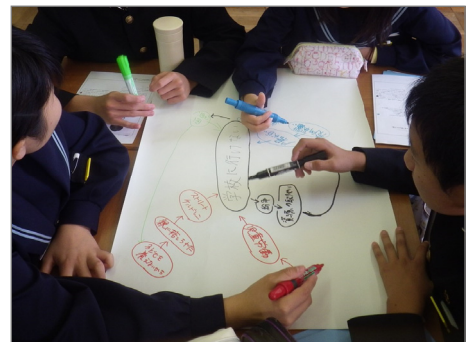
- ・ガーナの農村部の現状を知る。
- ・世界の就学率を知り、学校に行けない原因を考える。



出典：「もったいない!ばあさん 考えよう世界のこと」
※本文資料は日本ユニセフ協会より

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 少女の写真を見て想像したこと・・・15 歳ぐらい。／大家族。／幼いながらにして赤ちゃんを産んだ。／両親がいない。など
- ◇ 農場で飼っているブタの写真を見せたときは、あまりにブタが痩せていたので生徒は驚いていた。多種に及ぶ農場のため、ガーナの中でも裕福な方だろうと思っていた生徒は、未就学の子どもがいることに衝撃を受けていた。
- ◇ 4カ国の未就学の子どもたちの資料を読むと、学校に通うどころか自分たちの生活とはとてもかけ離れている同年代の子どもたちがいることがわかる。この嘘みtainな本当の話に、生徒はショックを受けていた。
- ◇ 派生図では、学校に行けない原因の元を辿ると、先進国も深く関わっていて自分たちも関係があるという



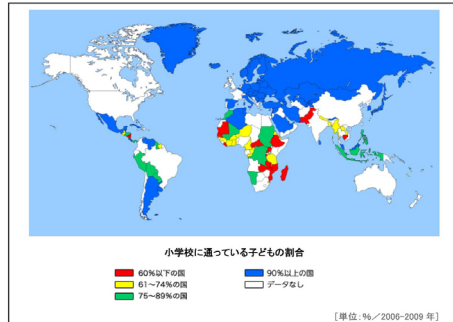
ことに行き着いてほしかったが、派生図に慣れてなかったためもあるのか、行きつかなかったグループもあった。

3 使用した教材

<教材5-1, 2>平成 26 年度教師海外研修受講者が収集した写真



<教材6>『小学校に通っている子どもの割合』ユニセフ ホームページ
子どもと先生の広場より
<教材7>世界の就学率 FREE THE CHILDREN ホームページより



7700 万人もの子どもたち(そのうち 57%は女の子)が、小学校での教育をまったく受けていません。
(データのある 125 カ国の統計での数)

日本では小学校から中学校の 6 歳~15 歳が義務教育とされ、*就学率はほぼ 100%といわれています。どの国でも大人は、子どもが教育を受けられるようにする義務があり、子どもは教育を受ける義務を持っています。

しかし、多くの開発途上国では、法律で義務教育とされている小学校、中学校における就学率が、平均して小学校で 85%、中学校で 49.5%と低くなっています。

これらの未就学児童のうち、

- 37%はサブサハラアフリカの児童
- 34%は南西アジアの児童
- 13%は東アジア及び大洋州諸国の児童
- 成人非識字者全体の 3 分の 2 は女性

そして世界の教職員の 70%近くは貧困ライン以下の生活を送っています。

<教材8>未就学の子どもたち 「もったいないばあさん 考えよう世界のこと」より

3 時限目「貧困はどこから？」

1 子どもの活動の流れ

- ① 貧困の輪[ストーリーづくり]・・・グループで貧困カードを読み、「貧困」から始まり、その後どのような流れになるかをホワイトボードに貼った。<教材9>
- ② 全体交流・・・貧困の輪の流れに正解はないことを伝え、クラス内で出た全パターンを出して交流した。
- ③ 貧困の輪を絶ち切る・・・輪になるということは、一度陥ると抜け出しにくい、その一方でどこかで輪を絶ち切ることができれば状況は良くなる。グループで、どの場面でどのような支援をすれば貧困の輪を絶ち切ることができるか、具体的な案を出して、ホワイトボードに記入した。
- ④ 全体で交流

この時限のねらい

- ・一度貧困に陥ると抜け出せなくなるという問題の循環図を考え、その問題の構造を発見する。
- ・問題の悪循環から脱するための手立てを考える。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 貧困の輪は、いくつかのパターンが出たものの、どのグループも輪をつくるのは速かった。
- ◇ 具体的な支援を考えた時は、多くのグループが「お金を送る」という意見しか出なかった。栄養不良や食べ物が不足している状況で現地にお金を送っても喜ぶのかとたずねると、生徒たちは考え始めた。

- ◇ 生徒たちが考えた具体的な支援…お金を送る。／食料を送る。／種を送る。／国境なき医師団を派遣する。／筆記用具を送る。／海外に興味を持っている人をボランティアとして派遣する。／工場を海外につくる。など

3 使用した教材

＜教材9＞『貧困カード』 ユニセフ「開発のための教育」より

4 時限目「援助とは？」

1 子どもの活動の流れ

- ① 持続可能な援助の概念 [フォトランゲージ]… 『魚のいない川と魚のとり方』のイラストを見せて、吹き出しの中に入るセリフを自由に考えた。その後、吹き出しに入る英文のセリフを見て、空いているところに入る英単語をグループで考えた。
＜教材10＞
- ② 『援助のはしご』…開発援助とは、段階に見合った援助をすることで、最終目標は援助なしの自立を支援することだという資料を読んだ。＜教材11＞
- ③ ガーナでの支援…統計データを見て、ガーナが20年間にどれだけ発展してきているかを数値で読み取り、具体的に行われている日本からの支援を、写真を通して学んだ。＜教材12, 13＞
- ④ 世界で活躍している日本人…青年海外協力隊員2名のインタビュー動画を観て、世界を支援している若者の存在を知り、今後の自分の進路を考え、自分に出来ることを考えた。その際、協力隊要請一覧を見て、自分の得意分野でも援助できることを知った。＜教材14, 15＞

この時限のねらい

- ・様々な援助のあり方や、持続可能な援助方法(開発援助)があることを知る。
- ・自分にできることは何かを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

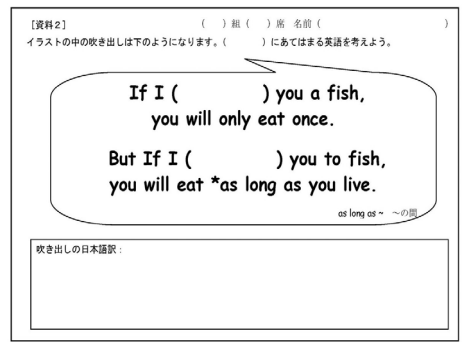
- ◇ 自由に考えた吹き出しでは、イラストから貧困状態に陥っていることは読みとれていたが、模範解答を出せる生徒はいなかった。英文のセリフを提示すると、各クラスとも数グループが答えの単語を導き出すことができた。
- ◇ ガーナの統計データは、数字で示されているのでわかりやすかった。生徒たちも20年間で飛躍して発展したガーナの状況に興味を示した。その後に、発展した理由である JICA の援助活動を、私が実際に訪れた人たちの写真を使いながら紹介したので、興味深く聞いていた。
- ◇ 過去に本校職員の家族がガーナで協力隊をしていた縁から、本校のサッカーボールをガーナに送ったことがあった。その時の写真や新聞記事をお借りして生徒に見せた。また、本校の温度計を数本寄付したことも生徒に伝えた。生徒はそれらのことを聞くと、ガーナとの距離が一気に縮まったようで、喜んでいただくと同時に、日本にいながらでもできる支援を知ることができたようだ。



3 使用した教材

<教材10>『魚のいない川
と魚のとおり方』 教師海
外研修ワークシートより

<教材11>『援助のはしご』
教師海外研修ワークシ
ートより



<教材12>『ガーナ 主要経済指標等 主要開発指数』外務省ホームページより

<教材13>平成 26 年度教師海外研修受講者が収集した写真(抜粋)



<教材14>平成 26 年度教師海外研修受講者が収集したインタビュー動画

<教材15> 平成 25 年度青年海外協力隊要請一覧

■ 全体を通して

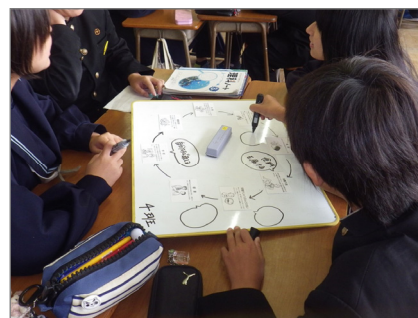
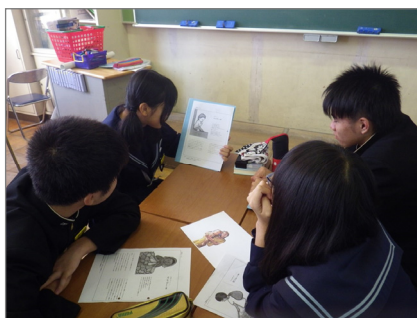
1 授業の様子

<写真1>1時限目:ガーナクイズ風景(上右)

<写真2>2時限目:自分の読んだ資料をグループに説明(下左)

<写真3>3時限目:貧困の輪を絶ち切る方法を考える(下中)

<写真4>4時限目:援助とは(下右)



2 参考文献・資料

- 1) ユニセフホームページ <http://www.unicef.or.jp/kodomo/>
- 2) フリー・ザ・チルドレン・ジャパン ホームページ <http://www.ftcj.com/>
- 3) 真珠まりこ 絵・作 『もったいないばあさんと 考えよう 世界のこと』 2007 年 講談社
- 4) ユニセフ 『開発のための教育』 1998 5) 外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/>